

京都の福祉

547

2015.7 July



●位高新会長就任挨拶

●つながりをとおして、
だれもが尊厳をもって生きることができる京都をめざします
京都府社協第4次中期計画スタート!

●平成26年度

京都府社会福祉協議会事業・決算報告

●夢中! 熱中! ふくしびと

相談中の大東さん
南丹市社会福祉協議会

もえくさ

▼京都府社協の5年間の方向性を示す第4次中期計画が完成した。策定にあたりご指導ならびにご助言をいただいた皆様にあらためて感謝申し上げます!▼いま、団塊の世代が75歳を迎える2025年を見据えて社会保障や社会福祉が大きく変化しようとしている。その中であって、

府社協の役割やなすべきことを明確にする作業は容易ではなかったというのが正直な感想である▼計画の中で5年間のビジョンを十分に描けたかと言えば、そうも言い難い。が、策定の過程で、職員同士が仕事の中で感謝されたエピソードを話し合ったり、「100人のストーリー」と題し関係する方々にインタビューし、その方々が挑戦されていることや府社協への期待についてお話を伺ったことは、府社協は「誰のため、何のために存在しているのか」を考える貴重な機会となった▼元スターバックスCEOの岩田松雄氏は著書のなかで「明確なミッションを持ち、追及している企業には強いブランド力がある」と述べている▼私たちも、第4次中期計画に掲げた理念や役割を真摯に追及し、計画にもとづく事業展開を図ろうと意を新たにしている。この5年は、府民や関係者の皆様から「府社協でなければならぬ」と思ってもらえる府社協づくりの5年間でもある。

(TTT)

位高新会長就任挨拶

「だれもが尊厳をもって生きることが できる京都」の実現をめざして

平成27年4月16日

このたび、京都府社会福祉協議会会長に就任いたしました位高光司でございます。就任にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

私と致しましては、福祉の問題に直接携わるのは今回初めてであります。10年間にわたる会社経営の経験の中で、障害者雇用の問題等福祉の問題に係ってまいりました。こうした、これまでの経験も生かし、微力ながら全力を尽くしたいと思っております。

さて、今日、人口減少社会の到来や厳しい雇用経済情勢のもと、住民同士のつながりの希薄化、孤立死や生活困窮者の増加など、地域社会において多様な生活課題が複雑化、深刻化しております。

こうした課題への対応と、団塊の世代が後期高齢者となる10年後の社会保障の整備をめざして、今年度は、介護保険制度の改正や生活困窮者自立支援法、子ども・子育て支援法の施行、社会福祉法人のあり方に関する社会福祉法の改正など、大きな転換が図られる節目の1年となっております。

こうした時に、会長という大役を仰せつかったことに対して、責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

本会におきましては、第4次中期計画のスタート年となっております。つながりをおととして、だれもが尊厳をもって生きることができる京都」の実現をめざし、幅広い方々との協働により、生活困窮や社会的孤立をはじめとする諸課題の解決に向け、事業を展開してまいります。

私といたしましても、これまでの業績を継承し、微力ながら皆様方と連携・協働して、京都府の地域福祉の向上に最善を尽くしてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



京都府社会福祉協議会会長
位高 光司 いたか こうし

つながりをとおして、 だれもが尊厳をもって生きることが できる京都をめざします 京都府社協第4次中期計画スタート!

本会では、今年度から平成31年度までの5年間の計画期間とする第4次中期計画を定めました。生活困窮や社会的孤立の広がり、福祉・介護人材の不足など、今日の社会福祉・地域福祉をめぐるのは厳しい状況にあります。つながりをとおして、だれもが尊厳をもって生きていくことができる福祉のまちづくりをめざします。計画の実行にあたり、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



1 計画の背景と趣意

本会では平成16年度から3期に渡り中期計画を定めてきました。今回の計画期間は、団塊の世代が75歳を迎える平成35年に向けて社会保障の見直しが進む、その折り返しへの5年にあたります。

社会福祉法人の見直しも進められています。これからは、本会をはじめすべての社会福祉法人において運営も一層の透明性が求められるとともに、各地域では社会福祉法人による公益的な活動が積極的に展開されることとなります。

また、この計画の期間中には、民生委員制度100年、共同募金運動70回の節目を迎えます。こうした背景のもと、この計画は、今日の地域福祉課題に対して本会が果たす役割や取り組みの方向を示すものとして策定しました。

2 策定の方法

上野谷加代子同志社大学院教授にアドバイザーをお願いするとともに、市町村社協や施設、企業CSRの関係者による提言委員会を設け、本会に対する意見や助言をいただきました。また、事務局職員一人ひとりの思い

を計画に生かすため、仕事で喜んでもらった経験を話したり、関係する方々に府社協への期待をインタビューするなど職員参加を大切にしました。

3 基本理念と役割

①基本理念

基本理念にある「つながりをとおして」には、地域における人と人とのつながりや、本会と関係する方々や機関・団体とのつながりを力にするという意味を込めました。

「尊厳」を大切にしたいという職員の総意から、だれもが尊厳をもって生きることが大切にされることを本会のめざす福祉の姿としました。

②5つの役割

中間支援組織としての本会の役割として、市町村社協、民生委員、社会福祉施設との協働とともに、広域的なネットワーク力として府域の福祉機関や当事者組織、また福祉領域にとどまらない幅広い関係機関との連携と協働による地域福祉の推進を掲げました。

また、権利擁護とサービスの質の向上、福祉・介護職場との協働による人材の確保・定着・育成、社協や施設、地域住民等による福祉実践の価値と魅力の発信、福祉課題の集約とその解決に向けた提言を役割とします。

4 5年間で 推進する重点

①発揮する機能(新しい設定)

協働、情報の収集と発信、提言の3つの機能を発揮することにより、府社協の存在価値を高めることに努めます。

②事業展開の柱(改正)

第3次中期計画での重点課題から発展させた点は次のとおりです。

- 生活困窮者等の自立支援(個別支援)と社会的孤立を防ぐ取り組み(地域支援)を一体的に推進する。
- 社会福祉法人の連携・協働の促進を事業展開の柱に掲げた。
- 防災・減災のまちづくり、災害時の被災者・被災地の思いに添った支援活動を事業展開の柱に掲げた。

● 広域の中間支援組織としての役割を發揮するため、幅広い協働による事業展開を位置付けた。

③組織基盤強化計画(充実・継続)

組織基盤の強化として、今日的な変化に対応するために会員制度の充実を図ることや、機動的かつ機能的な執行体制を確立するために役員構成・定数を見直します。また、職員の行動指針の策定や情報発信機能の強化を図ります。財政基盤の強化では、組織を支える財政基盤を安定させる取り組みを進めます。

新人紹介

京都府福祉人材・研修センター所長 齊藤 近滋
こちらの職場に来て早くも3ヶ月が過ぎようとしています。福祉の現場と求職者を結び、求職者の皆さんがその特技を活かし、いきいきと輝く福祉・介護の働く場づくりのお手伝いできればと考えております。そのため福祉人材・研修センター職員一同が力をあわせていけるよう努力をしておりますので、皆様のご協力をお願いします。



研修課 主事 西村 加那
4月1日付けで京都府福祉人材・研修センターの研修課でお世話になることになりました。研修事業を通して、福祉を支えて下さる方々に福祉の楽しさや魅力を発信し、その先に「安心」や「幸せ」が育つよう、日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



京都府福祉人材・研修センターに配属された嘱託職員
左から
原 伸子(処遇改善・スキルアップ支援事業担当)
足立百合佳(潜在有資格者再就業支援事業担当)
藤田智史(福祉人材マッチング支援事業担当)
津田 瞳(保育人材マッチング支援事業担当)



総務部、福祉部に配属された嘱託職員
左から
瀬川桂子(福祉経営推進室)
片山愛望(きょうと高齢者・障害者生活支援センター)
松本佐保(民生課)
太田有香(地域福祉・ボランティア活動振興課)
川崎典雄(民生課)



基本理念

つながりをおして、だれもが尊厳をもって
生きることが出来る京都をめざします。

役割

- ① 市町村社協や民生児童委員、社会福祉施設など第一線の人たちと協働し福祉のまちづくりを進めます。
- ② 広域的なネットワーク力を発揮し、地域福祉の諸課題の解決に向けて取り組みます。
- ③ 府民の権利を擁護し、サービスマス・支援の質を高める取り組みを進めます。
- ④ 福祉・介護職場と協働し、人材の確保・定着と、やりがい・専門性の向上に取り組みます。
- ⑤ 福祉実践の価値・魅力を発信するとともに、福祉課題を集約し京都の福祉の「これから」を提案します。

発揮する機能

- ▼ 協働する機能
- ▼ 情報を収集し、発信する機能
- ▼ 提言する機能

事業展開の柱

1. 「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進
生活困窮と社会的孤立を地域福祉の本来の課題と捉え、生きづらさを感じている人への個別支援と、「地域の力」を高める取り組みを一体的に進めます。
2. 社会福祉法人の連携・協働の促進と福祉サービスの質の向上
社会福祉法人が公益的な役割を一層発揮し、地域の福祉課題を解決する仕組みづくりを行います。利用者の権利擁護と、利用者との対等な関係・環境づくりをめざします。
3. 福祉・介護人材の確保・定着・育成のための総合的な事業の推進
福祉・介護人材確保に向けた総合的な取り組みを実施することにより、人口減少社会における安定的な福祉基盤の確保を図ります。
4. 「防災・減災のまちづくり」と「被災者・被災地の思いに添った災害支援活動」の推進
「防災・減災」をキーワードに福祉のまちづくりを進めるとともに、災害時には被災地主体の活動を支援し一日も早い生活の復旧・復興をめざします。
5. 幅広い協働による事業の展開
社会的孤立をはじめとする地域の福祉課題を可視化させ、新たな枠組みを提示することで、福祉分野を超えた多様な団体や機関の参画を促し、解決に向けた歩みをマネジメントします。

組織基盤の強化計画

京都府社協に求められる役割を果たすためには、組織基盤の安定が不可欠です。会員構成や役員体制を含めた組織の機能強化をはかるとともに、社協職員として必要な視点の共有や力量を高める取り組みを実施します。

また、組織を支える財源基盤を安定させる取り組みを推進します。

第4次中期計画の構成

発揮する機能

- ▶ 協働する機能
- ▶ 情報を収集し、発信する機能
- ▶ 提言する機能

事業展開の柱

- 1 「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進
- 2 社会福祉法人の連携・協働の促進と福祉サービスの質の向上
- 3 福祉・介護人材の確保・定着・育成のための総合的な事業の推進
- 4 「防災・減災のまちづくり」と「被災者・被災地の思いに添った災害支援活動」の推進
- 5 幅広い協働による事業の展開

組織基盤の強化計画 ▶ 組織基盤の強化 ▶ 財政基盤の強化



平成26年度

京都府社会福祉協議会 事業・決算報告

1 孤立を見逃さず自立した生活を支援する「絆ネット」の推進

孤立しがちな人を見逃さず自立した生活を支援するために、小地域福祉活動やサロン、地域の幅広い関係者等による「絆ネット」を市町村社協と協働して推進しました。

- 訪問見守りボランティア強化支援事業の実施と絆ネット構築支援事業（府から市町村への補助事業）を活用した絆ネットの推進。
- 「街ならではの田舎ならではの「当地実践」をテーマに、「第3回きょうと地域福祉活動実践者交流会」を市町村社協連合会と共催し、550人の参加者が実践交流。

- 社会的包摂をめざす福祉教育の推進のため「コンフリクト（知らないことから生じる地域の排除）」をテーマに講座を開催。
- 多様な世代の人たちのボランティア参加の促進を目指し、「新しい仲間・共感者の参加を考えるつどい」の開催、多様な世代のボランティア参加に関するアンケート調査を実施。
- 介護保険制度改正への対応協議のため、市町村社協事務局長によるラウンドテーブルを実施。

2 生活困窮者等の自己実現と自立支援

生活福祉資金貸付制度を中心に、生活困窮者の経済的生活支援及び就

労への橋渡しを柱とした事業を展開しました。

- 生活福祉資金及び臨時特例つなぎ資金の貸付総件数は、2600件（前年度2532件）と前年度より増加。
- 総合支援資金の貸付がピーク時の10分の1以下に減少した一方で、福祉資金・教育支援資金が大幅に増加。

府民の生活を支える権利擁護

情報が届きにくい人への的確な情報提供、生活を総合的に支える取り組み、福祉サービス利用者からの苦情対応、サービス提供事業者への啓発等を推進しました。

◇福祉サービス利用援助事業

（地域福祉権利擁護事業）
● 新規利用者は193人、延べ利用者数は1449人で、前年度比12・3%増。

● 利用契約者の90%を生活保護世帯、住民税非課税世帯が占める。また、

3

解約者の約24%が後見制度利用へ。総合相談・生活支援活動の一環として位置付けて展開。社協の法人後見についても検討。

◇運営適正化委員会事業

● 苦情件数は144件（前年度比145%）、問合せ件数は92件（前年度比66%）。
● 相対的に障害福祉サービスにかかる苦情が多く、苦情内容では「職員の接遇」「サービスの質や量」に関するものが多い。

京都府社会福祉協議会では、「第3次中期計画」に掲げる5つのアクションプランに基づき、平成26年度の事業を実施しました。計画における重点事業を中心に、その概要と特徴をご報告します。

5つのアクションプランに基づく重点事業

夢中! 熱中!

だから続けたい この仕事

ふくしびと

福祉の現場で働く人たちの熱い思いメッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいや「生」の声をお届けします。



福祉の仕事を始めたいきっかけ
私の地元、南丹市美山町は昔ながらの付き合いのある地域です。地域には高齢者や障がいをもつ方も暮らしておられ、住民同士が声を掛け合い助け合いながら暮らしています。そのような環境で育ち、暮らしのお手伝いをする「福祉」の仕事に興味を持ちました。

大学卒業後一般企業に就職しましたが、やはり福祉の仕事に就きたいと思い南丹市社会福祉協議会に転職しました。入職後、ファミリー・サポート事業やボランティアやふれあい・いきいきサロンなどの地域福祉事業を経て、現在はCSW（コミュニティソーシャルワーカー）として、生活困窮者の自立支援に携わっています。

この仕事では、経済的困窮と社会的孤立の問題を抱える方々への相談支援を行っています。病気や障がい、引きこもり、DVなど生活困窮状態に陥る理由は様々ですが、お話を聞く中で人と人との付き合いについて改めて考えるようになりました。

大切にしていること
「生活困窮」というと経済的な保障が思い浮かびがちですが、私は家族や地域職場での「つながり」がとても大切だと感じて

支えあつてつながりあえる 地域社会のために



います。この仕事に就いたことで、私自身が家族や職場、友達や地域の人、多くの人の支えがあつて、生活できていることに気がきました。今、私がかかわっている方はそのような「つながり」が薄かったり、途絶えていたりする方が多くいらっしゃいます。血縁でも地縁でもない、支援を通じて巡り合う一期一会の「縁」を大切に、南丹市に住んでよかったと思ってもらえる支援をしていきたいと思っています。

支援を通じて巡り合う 一期一会の「縁」を大切に

大東 由美子さん

●おおひがし ゆみこ
施設名：社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会
事業所住所：京都府南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地
HP/URL：http://care-net.biz/26/nantanshakyō/index.php
TEL.0771-72-3220 FAX.0771-72-3222
職種：CSW（コミュニティソーシャルワーカー）
経年数：3年9カ月（H27年7月時点）
▶好きな言葉：実るほど頭を垂れる稲穂かな
▶夢中になっている事：茶道



福祉人材の確保・定着・育成

●福祉サービス利用援助事業の適正実施を監視・助言するため、11市区町村協の実地調査を実施。
◇介護・福祉サービス第三者評価等支援機構
(事務局受託)
●受診件数は、介護サービス分野

183件(前年度比17・3%増)、福祉サービス分野70件(前年度比2・8%減)の合計253件(前年度比10・9%増)。
●第三者評価の受診促進を図るため、「出張講座」の実施やチラシ、パンフレットを作成。

4

福祉・介護現場の人材確保について、従来事業の充実とともに、新規事業を積極的に展開しました。

●福祉人材無料職業紹介事業では、求人登録数9400人、求職登録者数2814人、内定者数1226人。

●福祉職場就職フェアを計4回開催、求職者数1382人、内定者数207人。

●府内各大学等で、福祉職場の魅力

防災・減災のまちづくりと 災害時要配慮者支援の取り組み

平常時からの防災・減災を福祉のまちづくりのテーマとした取組の推進とともに、発災時には、迅速な現地支援活動を広域的・後方支援として展開しました。

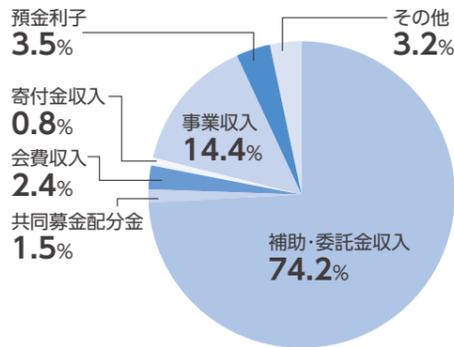
●平成26年8月豪雨災害に際して、福知山市における災害ボランティアセンターに資器材整備、スタッフ派遣、府災害ボランティアセンター事務局としてのボランティア

5

平成26年度決算の概況(一般会計)

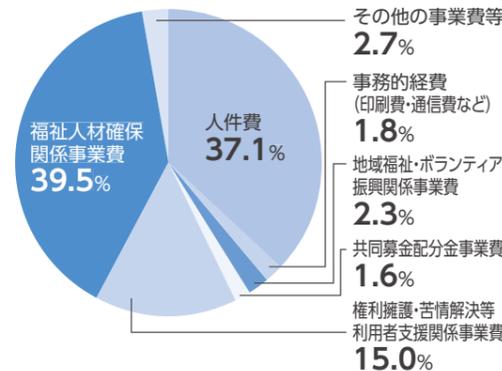
経常収入	決算額
補助・委託金収入	458,524,999
共同募金配分金	9,130,000
会費収入	14,970,800
寄付金収入	5,064,467
事業収入	89,005,258
預金利子	22,040,974
その他	19,634,445
総計	618,370,943

経常収入内訳



経常支出	決算額
人件費	214,453,106
事務的経費(印刷費・通信費など)	10,613,416
地域福祉・ボランティア振興関係事業費	13,030,206
共同募金配分金事業費	9,162,782
権利擁護・苦情解決等利用者支援関係事業費	86,739,380
福祉人材確保関係事業費	228,094,289
その他の事業費等	15,670,476
総計	577,763,655

経常支出内訳



※民間社会福祉施設整備資金にかかる収支等を除く実質的な収支

バスの運行等の後方支援を実施(ボランティア4899人、バス運行7日間・18台・686人)。

●常設型災害ボランティアセンターの設置推進(26年度設置6カ所、計15カ所設置)。

案内 第18回(平成27年度) 京都府介護支援専門員実務研修受講試験について

【試験日・会場】

- 日時 平成27年10月11日(日) 10:00～12:00
- 会場 立命館大学 衣笠キャンパス【試験案内(申込書)の配布】
- 6月8日(月)から7月21日(火)まで
- 市区町村役場(介護保険担当課)、府広域振興局、保健所等で配布
- 【受験申込受付期間】
- 7月7日(火)から7月21日(火)まで
- 所定の封筒を使用した「簡易書留」での郵送による申込みのみ
- 7月21日(火)の消印まで有効
- 【受験手数料】 7,700円

●問い合わせ先
京都府社会福祉協議会
介護支援専門員実務研修受講試験室
TEL.075-254-3844 (土曜・日曜・祝日を除く午前9時から午後5時まで)

案内 平成27年度 介護支援専門員(ケアマネジャー)実務研修受講試験のための受験対策講座

- 日程 7月25日(土)、8月1日(土)、8月22日(土)、9月12日(土)、10月3日(土)
- 時間 10:00～16:30
- 会場 京都社会福祉会館
- 受講料 1日につき7,000円
- 指導講師 伊東利洋氏 (有)いとう総研 取締役
- テキスト ケアマネジャー試験確実合格指南書15年版

開催要綱は、市区町村役場(介護保険担当課)、ハートピア京都等で配布しています。

案内 社会福祉士受験対策セミナー スタートダッシュ

- 日時 8月2日(日)10:00～16:30
- 会場 京都社会福祉会館
- 受講料 7,000円

●指導講師 伊東利洋氏 (有)いとう総研 取締役

●問い合わせ先
京都府福祉人材・研修センター研修課
TEL.075-252-6296

紹介 ひとり親家庭いきいきふれあい事業(キャンプ)参加者募集

- とき 平成27年8月8日(土)～9日(日)1泊2日
- ところ 「京都府立丹後海と星の見える丘公園」他 宮津市
- 内容 海水浴・交流会 等
- 参加できる人 京都府内(京都市を除く)に住む父子家庭の父と子(18歳未満)30組程度
- 申し込み 平成27年7月17日(金)までに所定の申込書をお近くの民生児童委員までご提出ください。
- 問い合わせ先 (主催)京都府民生児童委員協議会
TEL.075-256-7083 FAX.075-256-7084

平成27年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
お見舞い等	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	初期対応費用(期間中)	500万円	500万円
	事故初期見舞費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
利用者傷害事故見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5-7万円 通院時1-3.5万円	

保険期間1年

年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1～50名	35,000～61,460円
51～100名	68,270～97,000円
以降1名～10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) + 見舞費用付補償(B型) = 保険料

【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円



スケールメリットを活かし、
有利な補償と
割安な保険料
です。

◆27年度新設 施設の借用不動産賠償事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。●

団体契約者 **全国社会福祉協議会**
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL:03(3593)6824

取扱代理店 株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(SJK14-16361 2015.2.10 作成)

- 「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)
- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。